

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-56C	22-003	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
<p>Light-to-Moderate Alcohol Consumption Increases the Risk of Biliary Tract Cancer in Prediabetes and Diabetes, but Not in Normoglycemic Status: A Nationwide Cohort Study 軽度～中等度のアルコール摂取は糖尿病予備軍と糖尿病患者で胆道がんのリスクを増加させるが正常血糖状態では増加させない：全国規模コホート調査</p>		
執筆者		
Joo-Hyun Park, Jung Yong Hong, Kyungdo Han, Young Suk Park, Joon Oh Park		
掲載誌		
J Clin Oncol. 2022 Nov 1;40(31):3623-3632. doi: 10.1200/JCO.22.00145.		
キーワード	PMID	
アルコール摂取、血糖状態、胆管がん、胆嚢がん、胆道がん	35696635	
要 旨		
<p>目的：胆道がん(BTC)は非常に悪性度が高く、予防可能な危険因子を明らかにすることは重要である。本研究では、アルコール摂取量と胆管がん(CCA)・胆嚢がん(GBC)を含む BTC のリスクとの関連が、血糖状態により異なるか検討した。</p> <p>方法：2009年に韓国国民健康保険による健康診断を受けた、がん既往歴のない20歳以上の9,520,629人を対象とし、2018年12月までBTC発症の有無を追跡した。自記式質問票により、アルコール摂取頻度は0、1-2、3-4、5-7日/週で、アルコール摂取量は杯数/回で把握された。エタノール量を12g/杯として、1日平均アルコール摂取量(g)を算出し、非飲酒、軽度～中等度飲酒(<30g/日)、多量飲酒(≥30g/日)に分類した。血糖状態は、正常血糖(空腹時血糖<100mg/dL)、糖尿病予備軍(同100～125mg/dL)、糖尿病(同≥126mg/dL)で分類した。年齢、性別、肥満度、喫煙状況、身体活動、所得、雇用状況、居住地域、総胆管嚢胞、原発性硬化性胆管炎、胆管炎、原発性胆汁性肝硬変、胆石症、胆嚢炎、胆嚢摘出、肝浮腫、肝虚血、肝硬変、B型肝炎、C型肝炎で調整し、多変量Cox比例ハザード回帰モデルを用いて調整ハザード比(aHR)および95%信頼区間(CI)を評価した。相乗的な相互作用についてSynergy Indexを用いて決定し、有意水準5%未満とした。</p> <p>結果：糖尿病予備軍および糖尿病患者で、非飲酒に対して軽度～中等度のアルコール摂取は、CCA(aHR:1.20, 95%CI:1.13-1.28, aHR:1.58, 95%CI:1.47-1.69)およびGBC(aHR:1.18, 95%CI:1.07-1.31, aHR:1.45, 95%CI:1.28-1.64)のリスクが高かった。正常血糖者ではアルコール摂取とCCAおよびGBCリスクとの関連はなかった。多量飲酒では、血糖によらずCCA、GBCリスクが上昇し、多量飲酒と糖尿病を合併すると、CCA(aHR:2.04, 95%CI:1.83-2.26)およびGBC(aHR:1.65, 95%CI:1.33-2.04)のリスクは相乗的に増加した。</p> <p>結論：軽度～中等度のアルコール摂取は、糖尿病予備軍および糖尿病患者でBTCリスク上昇と関連し、正常血糖者では関連しなかった。糖尿病予備軍および糖尿病患者においてアルコール摂取を完全に回避することは、BTCのリスク低減に寄与することが示唆された。</p>		